

(様式第2号)

SDGsの達成に向けた重点的な取組み宣言書

作成日:	令和7年10月11日
事業者名:	株式会社 美ら地球

三側面	SDGsの達成に向けた重点的な取組み	関連するSDGsゴール (最大3つ)	実績	指標・目標	
環境	2020年度以降、使用している電力量および水量、排出される廃棄物を分類して月毎のデータをモニタリングの継続を実施することで二酸化炭素および廃棄物の排出を削減へと繋げていくための見える化を実施し、実際に現場における紙の資源利用削減対策および使い捨てプラスチックゴミの削減へと力を入れています。 また、失われつつある良き日本の里山の環境維持継承のために少しでも貢献できることを日々模索しています。	⑮陸の豊かさを守ろう、 ⑭海の豊かさを守ろう、 ⑫つくる責任 つかう責任	2020年以後、紙面によるツアー参加同意書を廃止し、Googleフォームを利用した回答方法を導入 2022年以降、サイクリングツアーで参加者1人に1本無料配布していたペットボトル飲料水の提供を廃止し、ウォーターサーバーによる飲料水の提供を開始 2024年より、使用する電力はすべて100%自然由来の電力へと切り替え実施	指標	①1人当たりの電力と水の消費量および廃棄物の排出量 ②環境問題等に関する研修またはワークショップの実施数
				目標	2027年度までに、 ①ツアー参加者および宿泊滞在者1人当たりにおけるツアー参加中または滞在中のCO2排出算出のための算出ツール導入 ②地域へ向けた日本の里山環境の重要性に関する知識および認識向上のための専門家による講演等の開催実施
社会	地域住民からすれば当たり前で特別なこととは思えないような日常風景が視点を変えればとても価値があり、魅力的なものであるということを知ってもらうためにも、そして知ってもらうことでこの先への維持継承へと繋げていくためにも、地域および地域外、国外からの学生の職業体験やインターンの受入れを実施しており、また、地域の教育機関における授業へもスタッフを外部講師や講演者として派遣しています。	④質の高い教育をみんなに、⑪住み続けられるまちづくりを、⑧働きがいも経済成長も	毎年、地元学生の職業体験の受入れ、古川小学校の5学年を対象とした特別郊外学習プログラムにおいて外部講師として「飛騨の匠」の文化を主題とした授業を実施 古川西小学校の6学年を対象とした「地域の魅力再発見」という授業へ外部講師として弊社代表とスタッフを派遣 ツアーやアクティビティを通じた地域住民とのコミュニケーションの場の提供(例:はさ干しお手伝い、英語ヒヤリングお手伝いなど)	指標	地域内外からの学生インターン受入れ数
				目標	前年度実績を超える受入れ実績の継続
経済	新規人事制度の導入による職場環境および働きがいの向上、およびデジタル技術を活用した業務の効率化の推進	⑧働きがいも経済成長も、⑪住み続けられるまちづくりを、⑰パートナーシップで目標を達成しよう	2023年度より、ストレングスファイナダーを導入した社内チームビルディング研修を毎年定期的の実施、これ合わせたスタッフ個々の「強み」を発見し、その能力を最大限に生かしたパフォーマンスの実施を目標とした会社経営陣と各スタッフ間における目標設定およびお互いの認識共有のための定期的な実施、2025年より、新入社員へむけたメンター制度の試験的導入を開始	指標	ツアーおよびアクティビティ催行、および宿泊実績数
				目標	前年度催行/宿泊実績を超える実績数の継続
ガバナンス	チェック				
	<input checked="" type="checkbox"/>	SDGsの達成に向けた重点的な取組みが従業員に共有されており、かつ達成するための仕組みが組織内に構築されている(PDCAサイクル等)。 <具体的な内容を記載> 毎月開催されている社内における主要な従業員が全員参加するミーティングで月毎の取組み実績や活動方針を共有し、これに追加して年に1, 2回の頻度で社内における持続可能性に関する取組みに関する社内ワークショップを開催することで社員の知識や認識、連携の向上に努めています。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	SDGsの達成に向けた重点的な取組みをホームページ等で対外的に公表している。 https://satoyama-experience.com/jp/sdgs/			